

2022年度 関東高校水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2022/7/26】

決勝

神奈川工

13

2	—	0
3	—	1
4	—	4
4	—	3
PSO		

8

前橋商業

審判：

木下 晃次

飯田 祥世

この試合のプレー集計

	38	SH数	26	
神奈川工	2	速攻数	1	前橋商業
	10	ST・SB	5	
	8	SH・P誘発アシスト	5	
	27%	GK阻止率	43%	
	4	EX反則数	6	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

神奈川工は2回目の出場で初優勝を目指す決勝戦。それとも古豪の前橋商が前年度同様に返り討ちにするか。

1P

センターボールを取った神奈川工がそのままボールをつなぎ、⑧齋藤が6mSHを決めて先制。前橋商は直前の準決勝同様、ミドルレンジでのDFに甘さが見られ、そこを神奈川工に狙われた形となった。その後は、長いラリーが続き、お互いの意地が激突。約7分間もの膠着状態を破ったのは神奈川工。前橋商のコントラ反則を起点に、エース⑧齋藤が中央突破からセンターSHを決めて、神奈川工2-0前橋商で第1ピリオド終了。

2P

劣勢に立った前橋商は、神奈川工シュートを防いで右展開のアーリーオフェンスを仕掛け、右45° から③正田がきれいに決めて追撃態勢に。しかし神奈川工もすかさず②佐々木の6mSH、⑨森谷が自らセンターで誘発した退水場面を決めて突き放した。その後は、またもや膠着状態となったが、このピリオドのとどめを刺した形の⑥仁木の中央突破で、神奈川工5-1前橋商で前半を折り返した。

3P

劣勢に立たされた前橋商も引き下がれない。神奈川工シュートを防いでからの全員攻撃で⑤前田が中央突破して2点目、さらに、神奈川工のコントラ反則からの速攻でエース④齋藤が決めて前橋商ペース。しかし、その直後、好機にコントラ反則を犯して神奈川工の速攻SHを決められて再び3点差に。この失点の前橋商には大きく響いた形となった。このピリオドは、双方のDFがやや甘くなり、その後は得点の応酬。しかし、ピリオド勝負は4-4の互角で、前橋商が点差を詰めることはできずに最終ピリオドへ（神奈川工9-5前橋商）。

4P

ピリオド先手を取ったのは神奈川工。センターボールを取った神奈川工が⑨森谷がセンターで決めて安全圏の5点差。前橋商としてはセンターボールからの2失点を含め、今大会でのディフェンス対応は今後の課題であろう。前橋商は退水場面でタイムアウトを取って確認したが、なかなかスムーズに攻撃が繋がらず失敗。ピリオド後半、勝利を確信した神奈川工はメンバーを交代させ、そのメンバーでも得点をあげるなどの経験を積ませる余裕の展開で、神奈川工13-8前橋商で神奈川工が初優勝を決めた。

優勝した神奈川工、昨年12月の桃太郎カップで優勝した後にやや不調に陥ったが、この優勝で完全復活。全国大会でもさらなる飛躍が期待されるものがある。前橋商はしっかりしたディフェンス対応できる場面もあるが、比較的対応しやすい場面での失点もあり、全国大会での成長を期待したい。